

5 領域との繋がりを明確化した支援内容

【児童デイサービスえがお：児童発達支援】

項目	ねらい
健康・生活	①健康状態の維持・改善 ②生活のリズムや生活習慣の形成 ③基本的な生活スキルの獲得
<p>○具体的な支援内容</p> <p>①健康状態の維持・改善</p> <ul style="list-style-type: none">・来所時に検温と傷チェックを行い、児童の身体の変化にすぐ気づくようにする。体調等の変化があった場合は保護者に伝達を行う。・手洗い、うがいの声掛けを徹底し、感染症対策を行う。 <p>②生活のリズムや生活習慣の形成</p> <ul style="list-style-type: none">・年齢、発達、特性に応じた午睡を行い、基本的な生活リズムの形成を促す。・家庭や関係機関と連携したトイレトレーニングを行い、排泄の自立を促し促す。・遊びやトイレのタイミングに応じて、衣服の着脱の練習も取り入れる。・絵カードや掲示物を活用し、時計への着目を促し生活の流れを身につけられるよう支援する。・個別支援活動で指先を使う活動を取り入れ、箸やスプーン等の習熟につなげる。 <p>③基本的な生活スキルの獲得</p> <ul style="list-style-type: none">・気温に合った衣服の調整ができるように声掛けを行う。・散歩や外出活動を通して、道路標識や信号に興味を持ってもらい、交通安全への意識を高める。・調理実習の中で食材に興味を持ち、作った物を食べる喜びを体験する。・買い物体験を通して予算に合ったお金の使い方を学ぶ。・外出活動を通して公共交通機関を利用し、社会のルールやマナーを伝える。	

5 領域との繋がりを明確化した支援内容

【児童デイサービスえがお：児童発達支援】

項目	ねらい
認知・行動	①認知の発達と行動の習得 ②空間・時間・数等の概念形成の習得 ③対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得
<p>○具体的な支援内容</p> <p>①（絵本の読み聞かせ、リズム遊び、感触遊び、屋外遊び、落ち葉探し、オセロ、粘土遊び、絵カード）</p> <ul style="list-style-type: none">・リズム遊び：音楽を聴くことにより聴覚の発達を促し、適切な音の認識が出来るように促す。また、ボディイメージの獲得からの模倣動作の獲得を促す。 <p>②（色水遊び、風船バレー、おやつ購入、カレンダー作り、ブロック遊び、折り紙）</p> <ul style="list-style-type: none">・色水遊び：色の認知（色の認識を促し、適切な情報選択と決定行動の獲得）・おやつ購入：役割と数の認識の習得。・カレンダー作り、1日の流れの掲示：時間の概念の習得。・風船バレー：目と手の協調、空間認識、追視等の発達や習得。 <p>③（調理実習、SST、神経衰弱、ごっこ遊び、ポッチャ遊び、間違い探し、ルールのある遊び）</p> <ul style="list-style-type: none">・神経衰弱、ワーキングメモリ：記銘力（視覚的、言語的）の向上。・お買い物体験（お買い物に行った際の役割、公共ルールなど、適切な行動の習得）・おままごと、ごっこ遊び：対人スキルの習得及び向上、役割やルールの習得。	

5 領域との繋がりを明確化した支援内容

【児童デイサービスえがお：児童発達支援】

項目	ねらい
人間関係・社会性	①仲間づくりと集団への参加 ②遊びを通じた社会性の発達
<p>○具体的な支援内容</p> <p>①仲間づくりと集団への参加</p> <ul style="list-style-type: none">・個別活動から集団活動へと段階を踏んで進め、1人1人の特性を踏まえて集団活動へ参加を促せるよう支援する。・視覚支援や見通しをもった声かけを行ない、安心して集団へ参加ができるように支援する。 <p>②遊びを通じた社会性の発達</p> <ul style="list-style-type: none">・1人遊びから共同遊びへつなげ、社会性や対人関係の芽生えを支援する。・見立て遊びやごっこ遊びを通じて、簡単なルールや物の貸し借りができるように支援する。・役割のある遊びや日常生活に繋げた遊びを通して、買い物体験などの社会性の発達を促す。	

5 領域との繋がりを明確化した支援内容

【児童デイサービスえがお：児童発達支援】

項目	ねらい
運動・感覚	①姿勢と運動・動作の向上 ②姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 ③保有する感覚の総合的な活用
<p>○具体的な支援内容</p> <p>①姿勢と運動・動作の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・椅子や机を用いて個々に適した調整を行ない、正しい姿勢を習得する。（踏み台、クッション等の補助的ツールを使用）また、姿勢の手本となる写真やイラストを掲示し、自ら意識して取り組めるようにする。 ・リズム遊び：聴覚を使って音楽や掛け声を聞き、視覚を使って手の指示を見るなど、指示通りに身体を動かすという遊びを通して身体コントロールや全身のバランス感覚を養う。 ・トランポリン、ぶら下がり棒、バランスボード、バランスポール、サーキット遊び、公園遊びなどの遊びを通して、体幹、バランス感覚、空間認知能力、身体機能の向上を目指す。 ・製作活動：ハサミ、糊、シール、両面テープ、鉛筆類、ペン などを使って、発達に応じた微細運動の導入。 ・箸やトングなどを使用した物移し遊び、洗濯ばさみなどを使用した手先指先の遊びの導入。 <p>②姿勢と運動・動作の補助的手段の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事においてスプーンやフォーク、箸など各種の補助的ツールを効果的に活用し、習得につなげる。 ・眼鏡の活用が習慣化できるように、眼鏡管理を写真やイラストを用いて促す。 <p>③保有する感覚の総合的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保有する五感を最大限に活かすことができるように遊びを通して支援する。 ・バランス能力や身体の使い方、力加減等を遊びを通して習得する。 <p>～保有する五感を最大限生かすことができるような活動～</p> <p>視覚：シルエットクイズ、影絵、色つき鬼 など</p> <p>聴覚：、楽器遊び、音当てクイズ など</p> <p>感触：スライム遊び、粘土遊び、水遊び など</p> <p>味覚：育てた野菜の試食、調理実習 など</p> <p>ビジョントレーニング：色タッチ、ナンバータッチ、風船ポンポン遊び、紙コップタワー、ボール遊びなど</p>	

5 領域との繋がりを明確化した支援内容

【児童デイサービスえがお：児童発達支援】

項目	ねらい
言語・コミュニケーション	①コミュニケーションの基礎的能力の向上と手段の選択と活用 ②言語の受容及び表出 ③言語の形成と活用
<p>○具体的な支援内容</p> <p>①・②・③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に合わせて環境を調整し発達段階に合わせた活動を取り入れる。 <p>例) 自由遊び(ごっこ遊び)を通して他者とのやりとりなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション手段(指差し、絵カード、ジェスチャー、発声発語)の選択・獲得 <p>例) お口の体操、シャボン玉遊び、ごっこ遊びなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや個別支援課題などの活動を通してコミュニケーション手段の活用 <p>例) おままごと、言葉遊び、外出活動、絵カードのポイントニング課題、構音訓練など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の向上 <p>例) 司会や発表を行う機会を作る。(帰りの会、誕生日会など)</p> <p>言語訓練内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○聴覚理解の訓練では、絵本の読み聞かせ絵カードの呼称を行い、音声での理解力を高める。 ○言語理解の訓練では、絵カードと単語を一致させる練習を行う。 ○言語表出の訓練では、絵カードを見て描かれた絵を口頭で答える練習を行う。 ○発声発語器官の運動では、口や舌の体操などを行う。(パタカラ体操、口腔体操など) ○高次脳機能訓練では、言語野や記憶に対する訓練内容(クイズ、間違い探し、書字、塗り絵など) <ul style="list-style-type: none"> 空間認知能力に対する訓練内容(迷路、型ハメ、図形パズル、塗り絵など)を行う。 ○嚥下訓練では、姿勢の保持(PT、OTと座位姿勢について協力する)食具の選択(スプーンやフォーク、介助皿の検討) <ul style="list-style-type: none"> 上半身の可動域確認・筋力確認(食具を持って口まで運べるのかなど)視覚認知(食事を認識して食べる物と判断できるかなど) 口腔機能の確認(食べ物を口に入れてかみ砕くことができるか舌を使って飲み込みやすい形を作れるかなど) <ul style="list-style-type: none"> (嚥下能力、口腔内で作った食べ物の塊を舌を使って喉の奥に送り込むことができるか、飲み込む際に力を入れて食堂へ食べ物を送り込むことができるか、嚥下反射が起きるかなど) 	

